

## 大阪興亜・俸協便り概要

- 1: 文書群番号 104001
- 2: 文書群名 大阪興亜・俸協便り
- 3: 出所 山崎宗太郎氏
- 4: 家業・役職等 社会大衆党員
- 5: 地名 大阪市北区梅ヶ枝町／大阪市北区西天満1～6丁目ほか
- 6: 行政区分 大阪市北区
- 7: 歴史  
社会大衆党（社大党）は、昭和7（1932）7月24日、社会民衆党と全国労農大衆党の合同により結成された社会民主主義政党。11・12年総選挙では、国内唯一の大衆的無産政党として躍進した。しかし満州事変以来、膨張する国家主義思想に影響され、表面的には全体主義的方向に転換しつつあったが、内部的には、社民系・日労系・労農系の確執が現れはじめていた。このような状況下において、15年2月、斉藤隆夫の「反軍演説」の党決定を巡り対立。党本部派が綱領を改正し態度を全体主義的方向に転換したことから事態は分裂に進み、同年7月、新体制運動に率先参加すべく、他政党に先駆けて解党した。  
社大党大阪府連は、当初合同が難航していたものの、11・12年総選挙では大阪府下、特に大阪市部で大躍進し、12年の大阪市議会選挙では第二党の地位となっている。その大阪府連の中心人物で、『大阪興亜』の主幹を務めていたのが庄健一（明治18年・1885生）である。昭和4年、飲食店を営んでいた庄は大阪市議会議員選挙で南区から立候補し当選（8・12年も当選）。戦前（特に1930年代）には社大党の委員や社会運動に活躍、戦後は日本社会党の結成に参加し、大阪府本部の労組担当を務めた。  
『大阪興亜』はもともとは『大阪都民新聞』であったが、昭和14年9月に改題している。またこの頃が創刊9年目にあたる。寄託者の久保在久氏によれば、『大阪興亜』は戦後の研究者にはほとんど存在が知られておらず、今回寄託を受けた史料が現存唯一の可能性もあるとのことである。
- 8: 伝来 久保在久氏が数年前に元社会大衆党員山崎宗太郎氏（1913～2002）より保管を託された史料であるが、劣化が甚大で個人では保管・利用が困難なため、平成16（2004）4月に当館が久保氏から寄託を受け同年9月に整理・目録作成を完了した。
- 9: 史料入手先 久保在久氏（労働運動史研究家）
- 10: 点数 8点（目録件数8件）
- 11: 年代 昭和11年（1936）～昭和15年
- 12: 構造と内容 本文書群は昭和14（1939）9月～11月、25年4月～6・8月の『大阪興亜』計7点と、11年8月の『俸協便り』1点から構成される。中心をなす『大阪興亜』は、大政翼賛体制へ移行する直前の社大党活動史料。極稀少史料だが劣化が甚大である。『大阪興亜』の発行所が社会大衆党大阪府連合会であり、社大党大阪府連の機関紙と判明する（中央機関紙は『社会大衆新聞』）。『俸協便り』は日本俸給者協会の機関誌である。創立総会の様子、役員指名、活動報告、関係資料が掲載されている。
- 13: 関連史料 -
- 14: 閲覧条件 原本劣化甚大のため、デジタル画像による

15: 作成者

近藤 浩二